

活動日	時間	天候	記録者
2018年7月12日(木)	9:30~12:00	(晴)	(菅田)
2018年7月25日(水)	9:30~12:00	(晴)	
参加者氏名 (9名+9名)	(7月12日) 松本治美、山田喜義、菅田忠志、塩ノ谷年子、田路義弘、丸井宣夫、 俵貴志子、橋野美子、水島康夫		
	(7月25日) 松本治美、山田喜義、米倉進、菅田忠志、塩ノ谷年子、小林澄夫、 俵貴志子、橋野敏子、水島康夫、		
今月実施した 作業内容	1. 観察小屋内でカブトムシ観察会直前の生育状態の確認作業。 2. カブトムシ観察会直後の後片付けと今後に向けての整備作業も始まる。		

写真説明

(7月12日)



いよいよカブトムシの生育観察会②(成虫採集と観察)まで10日となった。5月の観察会①で子どもたちが下の産卵場所からこの生育観察小屋へ引越させてきた3齢幼虫がすっかり成長し、元気な成虫となっているはず…。事前になんげ確認してみる。



なかなか見つからない。心配していた「豪雨とその後の酷暑」の影響もある様子。かなり下の方に潜り込んでいる成虫を数匹見つける。あとは子どもたちの方が上手に見つけるので任せよう。とりあえずは、出てくる成虫のための餌を置いておくことに。



今回の確認作業で見つかった「羽化不良」の個体。この状況からやはり豪雨の被害が考えられる。一番大切な「さなぎ～羽化」の段階で「蛹室」が大雨で崩れ、完全な変態に失敗したらしい。中には角が変形しているものもいた。



観察小屋以外の生育場所にも防虫網を設置。
花実の森以外の場所での「カブトムシイベント」用に備える。

(7月25日)



観察小屋の中は、3日前に子どもたちが約50匹の成虫を掘り出した跡でもあり、中の腐葉土はしっかりお役目をはたしてくれた。

今日からはすぐに来年に向けての作業が始まる。



小屋の中で仕切りに使っていた木枠もしばらくブルーシートに包んで保管。



観察小屋とは別に設けている下の物置前の生育場所では、林内の環境と異なり、豪雨と猛暑の影響をもろに受けたためか、成虫の個体数は極端に少なく、ほぼ全滅状態だった。

申し訳ない思いと、今後の生育観察のノウハウ向上につなげていかないといけないことを痛感した。